令和６年度 厚生労働科学行政推進調査事業費（障害者政策総合研究事業）

分担研究報告書

障害者手帳を所持する高齢者のうち介護保険サービスを利用しない者の生活機能の経年変化：長野県飯山市における調査から

分担研究者 岩谷 力　長野保健医療大学

研究協力者 北村 弥生 長野保健医療大学

研究要旨

【背景】障害者手帳所持者の高齢化が進行しているが、高齢障害者の支援ニーズは明確ではない。身体障害者手帳（特に、下肢機能障害）を所持する高齢者の生活機能は、障害者手帳を所持しない高齢者と比較して有意に低いことは先行研究により明らかになった。

【目的】若年期（39 歳以下）に身体障害者手帳を交付され、高齢期に在宅で介護保険サービスを使用しないで生活している者の生活機能の経年変化を明らかにすることを、本研究の目的とした。若年期の障害者手帳交付者には、高齢化による機能低下の経過が定型と異なることにより支援ニーズがあると予想したためである。

【方法】長野県飯山市における 2022 年と 2010 年の基本チェックリスト(KCL) 調査回答者のうち、障害者手帳所持者について KCL25 項目への不良回答率（否定的回答の選択割合）の 10 年間の経年変化を比較した。

【結果】 1) 2022 年 KCL 調査回答者（有効回答 5,572 名、回収率 90.9%）のうち障害者手帳所持者は 371 名であったが、若年期に障害者手帳を交付された者は 32 名、そのうち 2010 年 KCL 調査への回答者は８名であった。2)KCL 25 項目の経年変化では、KCL スコアを robust(0～3)、prefrail(4～7)、fail（8～）の 3 群に分けると、軽度化（prefrail から robust）1 例、変化がなし 4 例、重度化３例（frail に 1 例、prefrail が frail に 2 例）であった。

【考察】介護保険サービスを利用していない 65 歳以上の障害者手帳所持者(39 歳以前に手帳交付)について、生活機能の経年変化が少ない者は 6 割を占め、生活機能の低下の主な要因は明らかにならなかった。生活機能維持の要因と対策を検討することは今後の課題である。また、例数が多い 40 歳以降に障害者手帳を交付された者の生活機能の経年変化を分析することも次の課題である。

Ａ．研究目的

本研究では、高齢障害者に対する効果的な障害福祉サービスの構築に資するために、障害者手帳所持者のうち介護護保険サービスを利用していない在宅高齢者の生活機能の経年変化を明らかにすることを目的とする。

令和５年障害者白書によると在宅の障害者手帳所持者に占める 65 歳以上の者は身

体障害 74.2%、精神障害 35.1%、知的障害 5.5%で、3 障害ともに 65 歳以上の高齢者の占める割合は高率化している[1)]。障害福祉施策では、早期発見・早期療養、教育、就労、地域生活が求められてきた。しかし、若年期に障害者手帳を交付された者が高齢期に地域生活を継続するためのニーズは明確になっていない。筆者らは、介護保険サービスを利用しない高齢者においては、障害者手帳所持者は非所持者に比べて生活機能が有意に低いこと、差があった項目数は内部障害では少なかったが下肢機能障害では多かったことを明らかにした。このことは、障害者手帳所持者のニーズに介護保険サービスが対応していない可能性を示唆するとも考えられた[2)]。

高齢障害者（65 歳以上の障害者手帳所持者）は、生活上の支援ニーズについて障害福祉サービスに相当する介護保険サービスがある場合には原則として介護保険サービスを優先して利用することとされている[3)]。国は障害福祉サービスを利用していた障害者の介護保険サービス利用を円滑にするために、2018 年に「共生型サービス、新高額障害福祉サービス等給与費」を制度化した[4)]。共生型サービスには、不足する介護保険サービス・障害福祉サービスが共生型介護保険サービスで補うことができること、人材不足のなかで人材の有効活用が期待できること、事業所の職員の総合的な技術、専門性を高められることなどが期待されている[5)]。

一方で、障害者と非障害者の利用ニーズ、ケアニーズの違いを明らかにすること、障害者向けの介護サービスプログラム開発などが課題となっている[4)]。そこで、本研究では、介護保険サービスを使わない場合に、高齢障害者の生活機能低下を補うサービスの内容と量を知るために、介護保険サービスを利用していない高齢障害者の生活機能の経年変化を明らかにすることを目的とする。特に、若年期に身体障害者手帳を交付された者に注目する。なぜならば、若年期の障害者手帳交付者には、高齢化による機能低下の経過が定型と異なることにより支援ニーズがあると予想したためである。また、若年期に障害福祉サービスを利用していた場合には、介護保険サービスではニーズを充足できない場合があることが指摘されているためである[6)]。

B．研究方法

1．使用データ

長野県飯山市において、毎年 1 回、飯山市役所地域包括支援センターが市内在住の 65 歳以上の介護保険サービスを利用していない高齢者を対象とし、区長、隣組長を介して行った基本チェックリスト（Kihon Check List: KCL）調査のデータ（エクセル形式）を、2010 年から 2022 年に亘って入手した。回収率は高率で、例えば、2022 年調査では、対象者 6,251 名、回答者 6,028 名、KCL25 項目に一問以上回答した有効回答者 5,572 名（有効回答率 89.1%）であった。尚、飯山市住民基本台帳による 65 歳以上人口は 7,514 名であり(2022 年)、調査対象者 6,251 名は 83.2%に相当する。

調査参加者データに、2022 年段階での障害者手帳所持の有無、手帳交付年月日、手帳種別（身体、知的、精神）、身体障害種別（視覚、聴覚、上肢、下肢、心臓機能、腎臓機能、呼吸機能、ぼうこう・直腸機能

障害、小腸機能障害、ヒト免疫不全ウイルスによる免疫機能障害、肝臓機能)、身体障害等級、精神障害等級、知的障害等級を加え、分析に用いた。

２．基本チェックリスト(KCL)調査票

KCL は IADL5 問、運動機能 5 問、栄養 2 問、口腔 3 問、閉じこもり 2 問、 認知機能 3 問、うつ 5 問、計 25 問の設問に「はい」か「いいえ」で回答する自記式質問票である。「否定的回答」に 1、「肯定的回答」に 0 を付加し、スコア化し、介護保険の総合事業対象者選定に用いられている（表１）[7]。 KCL は要介護認定の発生予測、フレイル評価の尺度として妥当性が検証されている[8),9),10)]。

３．分析

手帳所持者を手帳交付時年齢により、39 歳以下、40～64 歳、65 歳以上の 3 群に分け、手帳所持者の KCL 項目への否定的回答数の平均値、最大、最小値を求め、3 群間で比較した。

39 歳以下群の年齢（2022 年度現在)、性別、障害種別を求め、2010 年度と 2022 年度の KCL25 項目合計点（スコア）を比較し、生活機能の推移を検討した。

長野保健医療大学は、飯山市と「健康・医療・福祉活動の推進、地域づくり支援などに関する連携協定」(2018 年 7 月 3 日締結）に基づき、2010 年度以降の匿名化した KCL 調査データの提供を受け、解析を行っている。本研究は、長野保健医療大学倫理審査委員会の承認を得て実施した（承認番号 2020－3)。

Ｃ．研究結果

１．手帳所持者の人口学的特徴―先行研究による分析結果―

すでに、筆者らによる先行研究により使用データから示されたことを再掲する[2)]。2022 年調査参加者のうち、身体障害者手帳所持者 325 名 5.8%、精神障害者保健福祉手帳所持者 36 名 0.65%、療育手帳所持者 10 名 0.18%であった。 表２には、３種類の障害者手帳所持者 371 名を、性・年齢階層で分類して示した。さらに、表３では障害者手帳所持者数を障害種別・等級を示した。

２．手帳交付年齢と KCL25 項目合計点の関係

表４に、年齢交付年齢３群（39 歳以下、40～64 歳、65 歳以上）の KCL の否定的回答数（以下、KCL 不良数）の平均、最小、最大値を示した。KCL 不良数の分布幅は大きく、平均値は大きい順に 65 歳以上交付群、39 歳以下交付群、40～64 歳交付群であった。

３．39 歳以下の障害者手帳交付者

39 歳以下交付群について、表５に 2022 年 KCL 不良数、2010 年 KCL 不良数、2010 年と 2022 年の KCL 不良数の差、差のタイプを示した。

32 名の 2022 年の平均年齢 72.7 歳（幅 64～88 歳)、2010 年度調査で KCL25 問の回答に欠損がないデータがあった者は８名であった。

４．若年期（39 歳以下）に障害者手帳を交付された者の KCL 不良数の経年変化

2010 年と 2022 年の KCL 調査で欠損値がなかった８名の KCL スコアを robust(0～3)、prefrail(4～7)、fail（8～）の 3 群[8]に分け、両年間の変化を検討した。2010 年には robust 3 例、prefrail 4 例、frail 1 例、2022 年には robust 3 例、prefrail 1 例、frail 4 例であった。robust, prefrail から frail になったのは３例（男 2、女１）で、年齢は 77 歳、81 歳、85 歳であった。Frailty type が軽度化（prefrail から robust）が 1 例、変化がなかったのが 4 例、3 例が重度化した（robust が frail に 1 例、prefrail が frail に 2 例)。

５．Prefrail から frail になった３例

10 年間で prefrail から frail に KCL 不良数が増加した 3 事例はいずれも、2010 年の時点で０であった IADL 領域スコア、閉じこもり領域スコアが、2022 年時点では上昇していた。

Ｄ．考察

地域で生活し介護保険サービスを使用しない障害高齢者のうち障害者手帳交付年齢が 39 歳以下の KCL 回答者（2022 年調査）は、5,572 名中 26 名と極めて少なかった。

26 名中８名については、13 年間の生活機能の経年変化に３つのパターンを分類したが、増悪した３事例について共通した特性は見いだせなかった。一方、８名中５名 62.5%には生活機能に大きな変化がなかったことは注目される。それぞれの群の転帰と生活機能維持のための対策を検討することは今後の課題である。また、例数が多い 40 歳以降に障害者手帳を交付された者の生活機能の経年変化を分析することも残された課題である。

Ｅ．研究発表

学会発表

１．北村弥生．国民生活基礎調査で示された視覚に機能制限がある者の特性．第 32 回視覚障害リハビリテーション協会研究大会．東京．2024-09.

論文発表

１．Kazuki Kitazawa, Kenji Tsuchiya, Kazuki Hirao, Tomomi Furukawa, Fusae Tozato, Tsutomu Iwaya and Shinichi Mitsui. Escalation on Kihon Checklist Scores Preceding the Certification of Long-Term Care Need in the Older Population in Japan. A 9-Year Retrospective Study. Health Services Research and Managerial Epidemiology. 11(1-9); 1-9:2024.

文献

１．内閣府．令和５年版障害者白書．参考　資料障害者の状況．2023.
https://www8.cao.go.jp/shougai/whitepaper/r05hakusho/zenbun/indexpdf.html（2024.05.01.引用）

２．岩谷力，北村弥生．障害者手帳を所持する高齢者と所持しない高齢者における生活機能の比較：長野県飯山市における調査から．令和５年度 厚生労働科学行政推進調査事業費（障害者政

策総合研究事業）分担研究報告書: 7-20, 2024.
３． 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部. 障害者自立支援法に基づく自立支援給付と介護保険制度との適用関係等について. 2011.
https://www.mhlw.go.jp/seisakunitsuite/bunya/hukushi_kaigo/shougaishahukushi/kaiseihou/dl/tuuthi_111121_08.pdf
(2024.05.01.引用)
４． 厚生労働省. 共生型サービス
https://www.mhlw.go.jp/stf/seisakunitsuite/bunya/0000212398_00016.html
(2024.05.01.引用)
５． 三菱UFJリサーと＆コンサルティング. 自治体が共生型サービスに期待していること. 令和元年度老人保健健康増進等事業「共生型サービスの実態把握及び普及啓発に関する調査研究事業」報告書. 2020.
https://www.murc.jp/wpcontent/uploads/2020/04/koukai_200424_6.pdf
(2024.05.01.引用)
６． 丸岡稔典,我澤賢之. 高齢障害者の介護保険利用の実態. 社会システム研究. 41:267-280, 2020.
７． 遠又 靖丈, 寳澤 篤, 大森（松田）芳, 他: 1 年間の要介護認定発生に対する基本チェックリストの予測妥当性の検証:大崎コホート 2006 研究. 日公衛誌 2011; 58(1): 3-13.
6. 厚生労働省老健局総務課. 介護サービス利用の手続き. 公的介護保険制度の現状と今後の役割. 2018.
https://www.mhlw.go.jp/file/06-Seisakujouhou-12300000Roukenkyoku/0000213177.pdf
(2024.05.01.引用)
８． Satake S, Senda K, Hong H-J et al. Validity of Kihon Checklist for assessing frailty status. Geriatr Gerontol Int 2016;16:709-715.
９． Watanabe D, Yoshida T, Watanabe Y, et al. Validation of Kihon Checklist and the frailty screening index for frailty defined by the phenotype model in older Japanese adults. BMC Geriatrics 2022;22:478.
１０． 厚生労働省社会・援護局障害保健福祉部企画課. わが国における障害認定の歴史的経緯と現状. ノーマライゼーション, 2013 年 11 月.
https://www.dinf.ne.jp/doc/japanese/prdl/jsrd/norma/n388/n388003.html
(2024.05.01.引用)

表１　基本チェックリスト項目　（厚生科学研究費報告書[2]より転載）

	表１　基本チェックリスト（KCL）				
番号	設問	回答選択肢		設問略称	機能領域
1	バスや電車で一人で外出していますか	0. はい	1. いいえ	バス外出	IADL
2	日用品の買い物をしていますか	0. はい	1. いいえ	買い物	
3	預貯金の出し入れをしていますか	0. はい	1. いいえ	預貯金	
4	友人の家を訪ねていますか	0. はい	1. いいえ	友人訪問	
5	家族や友人の相談にのっていますか	0. はい	1. いいえ	友人相談	
6	階段を手すりや壁を伝わらずに昇っていますか	0. はい	1. いいえ	階段	運動機能
7	椅子に座った状態から何もつかまらずに立ち上がっていますか	0. はい	1. いいえ	立ち上がり	
8	15分くらい続けて歩いていますか	0. はい	1. いいえ	15分歩行	
9	この1年間に転んだことがありますか	1. はい	0. いいえ	転倒	
10	転倒に対する不安は大きいですか	1. はい	0. いいえ	転倒不安	
11	6か月間で2～3 kg以上の体重減少がありましたか	1. はい	0. いいえ	体重減少	栄養
12	身長（　）cm　体重（　）kg　BMI＝（　）　（BMI<18.5ですか）	1. はい	0. いいえ	痩せ	
13	半年前に比べて固いものが食べにくくなりましたか	1. はい	0. いいえ	固形物	口腔機能
14	お茶や汁物等でむせることがありますか	1. はい	0. いいえ	むせ	
15	口の渇きが気になりますか	1. はい	0. いいえ	口渇	
16	週に1回以上外出していますか	0. はい	1. いいえ	週1外出	閉じこもり
17	昨年と比べて外出の回数が減っていますか	1. はい	0. いいえ	外出減	
18	周りの人から「いつも同じことを聞く」などの物忘れがあるといわれますか	1. はい	0. いいえ	物忘れ	認知機能
19	自分で電話番号を調べて、電話をかけることをしていますか	0. はい	1. いいえ	電話	
20	今日が何月何日かわからない時がありますか	1. はい	0. いいえ	月日不明	
21	（ここ2週間）毎日の生活に充実感がない	1. はい	0. いいえ	充実感	うつ
22	（ここ2週間）これまで楽しんでやれていたことが楽しめなくなった	1. はい	0. いいえ	楽しみ	
23	（ここ2週間）以前は楽にできていたことが今ではおっくうになった	1. はい	0. いいえ	億劫	
24	（ここ2週間）自分が役に立つ人間だと思えない	1. はい	0. いいえ	自己効力	
25	（ここ2週間）わけもなく疲れたような感じがする	1. はい	0. いいえ	疲労感	
26	同居者はいますか	0. はい	1. いいえ	同居者	社会生活
27	助けが必要な時に依頼できる家族や友人はいますか	0. はい	1. いいえ	支援者	
28	誰かと毎日会話をしていますか	0. はい	1. いいえ	毎日会話	
29	地域での集まりに出かけますか	0. はい	1. いいえ	集会参加	
「介護予防のための生活機能評価に関するマニュアル（改訂版）平成21年3月　一部改変 https://www.mhlw.go.jp/topics/2009/05/dl/tp0501-1c.pdf（2024.04.29. 引用）					

表２　2022 年飯山市基本チェックリスト調査回答者の障害者手帳所持・性別・年齢
（厚生科学研究費報告書[2]より転載）

表２　KCL回答者中の障害者手帳所持者と手帳非所持者の性別・年齢内訳

		男					女					合計				
年齢（歳）		身体	精神	知的	非所持	合計	身体	精神	知的	非所持	合計	身体	精神	知的	非所持	合計
65-69	人	29	7	4	669	709	27	12	3	680	722	56	19	7	1349	1431
	%	4.1	1	0.6	94.4	100	3.7	1.7	0.4	94.2	100	3.9	1.3	0.5	94.3	100
70-74	人	42	5	0	773	820	33	4	2	745	784	75	9	2	1518	1604
	%	5.1	0.6	0	94.3	100	4.2	0.5	0.3	95	100	4.7	0.6	0.1	94.6	100
75-79	人	41	3	0	447	491	26	3	0	510	539	67	6	0	957	1030
	%	8.4	0.6	0	91	100	4.8	0.6	0	94.6	100	6.5	0.6	0	92.9	100
80-84	人	23	0	0	327	350	24	2	0	430	456	47	2	0	757	806
	%	6.6	0	0	93.4	100	5.2	0.4	0	93.9	99.6	5.8	0.2	0	93.9	100
85-89	人	19	0	0	178	197	33	0	1	272	306	52	0	1	450	503
	%	9.6	0	0	90.4	100	10.8	0	0.3	88.9	100	10.3	0	0.2	89.5	100
90-	人	7	0	0	81	88	21	0	0	89	110	28	0	0	170	198
	%	8	0	0	92	100	19.1	0	0	80.9	100	14.1	0	0	85.9	100
合計		161	15	4	2475	2655	164	21	6	2726	2917	325	36	10	5201	5572
%		6.1	0.6	0.2	93.2	100	5.6	0.7	0.2	93.5	100	5.8	0.6	0.2	93.3	100
平均値		75.6	76.4	67.5	74.5	74.6	77.2	81	70.7	75.3	75.5	77.7	70.3	69.1	69.49	74.9
中央値		77.5	80	66.5	81	73	76.4	75.5	78.5	81.5	75	77	68	66.5	75	87.5
最小値		64	66	65	64	64	64	69	64	64	64	64	64	64	65	64
最大値		91	94	69	98	98	94	93	85	100	100	97	82	85	85	100

表３　2022 年飯山市基本チェックリスト調査回答者の障害者手帳種別・等級・交付時年齢
（厚生科学研究費報告書[2] より転載）

表３　KCLに回答した障害者手帳所持者の障害種別と等級								（人）	
		1級	2級	3級	4級	5級	6級	7級	合計
身体障害	視覚	3	13	1	3	1	4	0	25
	聴覚	0	6	1	4	0	13	0	24
	音声言語・咀嚼	0	0	3	1	0	0	0	4
	ろうあ	0	3	0	0	0	0	0	3
	上肢切断	0	1	1	3	2	0	0	7
	上肢機能	0	4	6	7	4	1	2	24
	下肢切断	0	0	1	0	0	0	0	1
	下肢機能	0	3	25	47	12	8	0	95
	体幹	1	0	4	0	3	0	0	8
	心臓	61	0	10	14	0	0	0	85
	腎臓	25	0	0	0	0	0	0	25
	呼吸器	3	0	4	1	0	0	0	8
	膀胱	0	0	0	15	0	0	0	15
	肝機能	0	0	0	1	0	0	0	1
	合計	93	30	56	96	22	26	2	325

障害種別	等級	合計
精神	1	18
	2	14
	3	4
	計	36
知的	A1	2
	A2	0
	B1	7
	B2	1
	計	10

表４　手帳交付年齢と KCL25 不良回答数の平均値・最小値・最大値

手帳交付年齢	39 歳以下	40～64 歳	65 歳以上
KCL25 不良回答数平均値	6.5	4.7	6.7
KCL25 不良回答数最小値	0	0	0
KCL25 不良回答数最大値	16	20	19

表５ 39 歳以下で障害者手帳を交付された KCL 調査回答

事例番号	2022 年 KCL25	2010 年 KCL25	KCL25 差	Type
1	8			
2	1			
3	4			
4	1			
5	3			
6	0	0	0	1
7				
8	1			
9	3	4	-1	1
10	0			
11	8			
12				
13	9			
14		4		
15	6			
16	2	0	2	1
17	11	4	7	3
18	9	0	9	3
19	10			
20	16			
21				
22	9			
23	9	4	5	3
24	11			
25				
26	4			
27	7	6	1	2
28	3			
29	10			
30	8	9	-1	2
31		15		
32	13			

※ 2022 年 KCL25 値が空欄の事例では、25 項目のうち欠損値があった。